

リハビリテーション科

《概要・実績》

〔理学療法〕

2008年4月～2009年3月の1年間にリハビリテーション科にて理学療法、言語療法を行った患者様は1,017名で、理学療法821名、言語療法196名であった。

理学療法の男女比は男性388名、女性433名、男性47.3%女性52.7%で平均年齢は69.9歳であった。言語療法の男女比は男性114名、女性82名、男性58.2%女性41.8%で平均年齢は68.4歳であった。

理学療法の中でTHAは86名で平均年齢64歳、初期FIM平均点が88.3点最終FIM平均点は121.9点でFIM変化は33.6点であった。

TKAは84名で平均年齢72歳、初期FIM平均点が95.5点、最終FIM平均点は123.7点でFIM変化は28.2点であった。

当院の人工関節のクリティカルパスでは3週で退院であるが、実施日数20日以上費やした患者はTHA5名TKA1名で全体の4%であった。THA、TKAの自宅退院はTHAが86名中78名(90.7%)TKAは84名中80名(92%)であった。

厚生省によるとFIM115点以上でADL自立とされている。退院時THAでは115点以下のケースは10名でTHA全体の11.6%であった。RAによる上肢の機能低下、右前腕切断、認知症、人工関節感染後抜去、肩関節脱臼等の患者様であった。TKAでは115点以下は4名でTKA全体の4.8%であった。3名が反対側の変形膝関節症がひどく、手術予定の方と1名は上肢切断の方であった。

転医になったケースはTHA86名中8名で全体の9.3%であった。転医となった理由を考察すると、2名は入院中の脱臼がありFIM115点以下一人、もう一人は126点であった。脱臼肢位についても充分学習してもらい、外転装具装着して院内ADL自立していたが、直接自宅退院ではなく、理学療法継続し自信を持って自宅退院できるよう、転医となった。すでに転医が決まっていた方が1名、認知症があり家族の理由で転医した方が1名、2名はRAによる上肢が不自由な一人暮らしの方であった。TKAは87名中7名が転医となり、全体の8%で3名は反対側の手術予定の患者で、痛みが強く自宅退院困難、手術までの間転医となった。本人の希望で転医した方が1名、FIM116点で一人暮らしの方が1名、もう1名はFIM123点であったが、入院当初より転医予定の患者であった。(表1.2)

外科疾患で理学療法を行ったケースは69名で、平均年齢は74.4歳。自宅退院39名(56.5%)転医15名(21.7%)死亡退院15名(21.7%)であった(表4)。内科疾患で理学療法を行ったケースは56名で、平均年齢は72.2歳。自宅退院33名(58.9%)転医16名(28.6%)死亡退院7名(12.5%)であった。(表3)

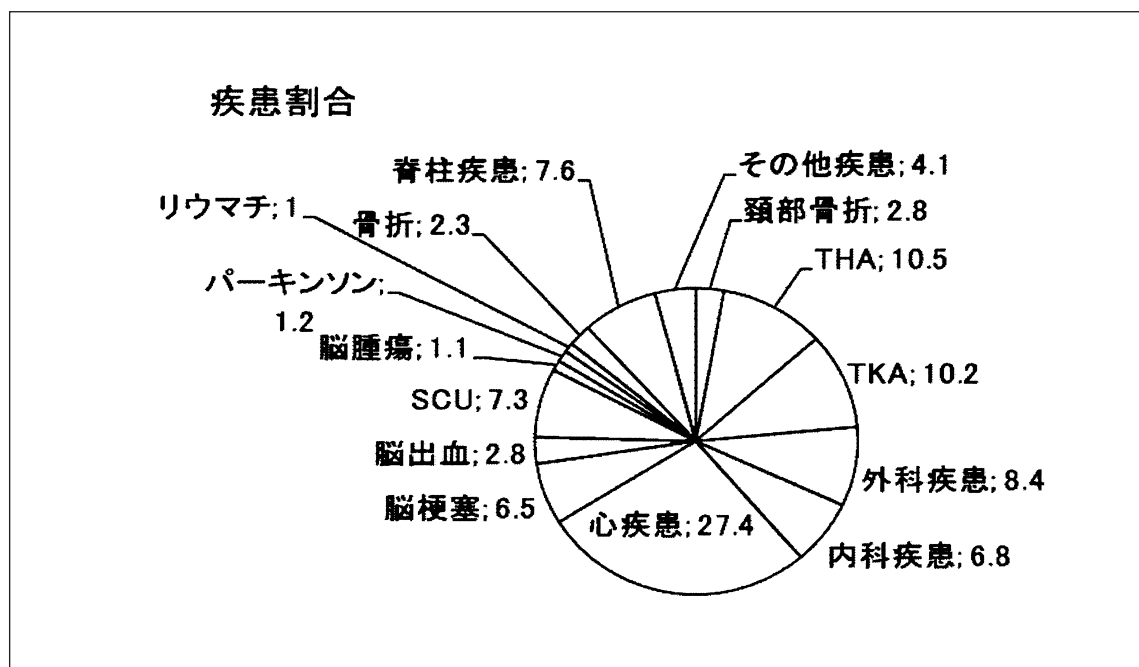
脳血管疾患(脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、パーキンソン、SCU含む)で理学療法を行ったケースは155名で、平均年齢は71歳。自宅退院55名(35.5%)転医87名(56.1%)死亡退院7名(4.5%)であった。(表6.7.8.9)

心疾患(循環器、心臓血管外科合わせて)で理学療法を行ったケースは233名で、平均年齢は71歳。自宅退院186名(79.8%)転医35名(15%)死亡退院7名(3%)であった。(表5)

患者数集計

		心大血管Ⅱ	早期	脳血管Ⅲ	早期	運動器Ⅱ	早期	呼吸器Ⅱ	早期	合計	退院時指導	総合計画評価	SCU	摂食機能療法	その他		
古田	入院	単位	0	0	191	523	76	616	0	0	1,406	0	0	0	0	0	
		人	0	0	189	478	75	615	0	0	1,357						
	外来	単位	0	0	20	3	15	7	0	0	45	0	0	0	0	0	0
		人	0	0	16	3	15	7	0	0	41						
南野	入院	単位	0	0	968	1,329	258	1,878	0	0	4,433	16	0	0	0	0	0
		人	0	0	968	1,310	258	1,575	0	0	4,111						
	外来	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
及川	入院	単位	0	0	300	756	18	627	0	0	1,701	0	0	282	0	0	0
		人	0	0	279	634	18	574	0	0	1,505						
	外来	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
石田	入院	単位	0	0	1,265	2,212	219	1,120	0	0	4,816	0	0	0	0	0	0
		人	0	0	912	1,749	155	729	0	0	3,545						
	外来	単位	0	0	0	0	38	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0
		人	0	0	0	0	38	0	0	0	38						
横山	入院	単位	0	0	249	198	0	0	0	0	447	0	0	0	0	0	0
		人	0	0	1,655	164	0	0	0	0	1,819						
	外来	単位	0	0	24	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0
		人	0	0	56	6	0	0	0	0	62						
合計	単位	0	0	3,017	5,021	624	4,248	0	0	12,910	16	0	282	0	0	0	
	人	0	0	4,075	4,344	559	3,500	0	0	12,478							

(1) 疾患別割合



(2) 疾患別転帰とFIM・BI

表 1

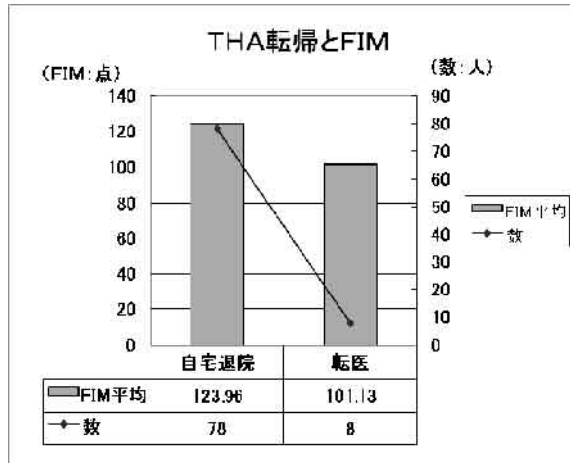


表 2

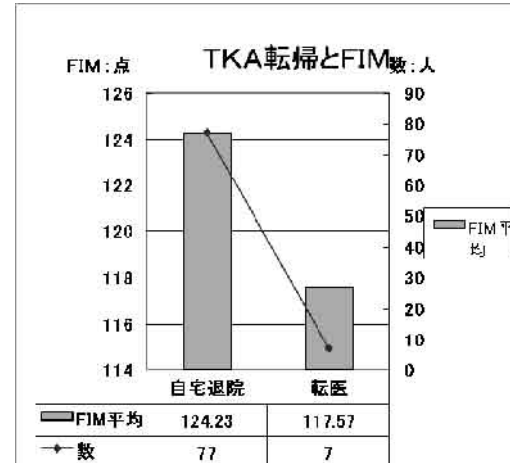


表 3

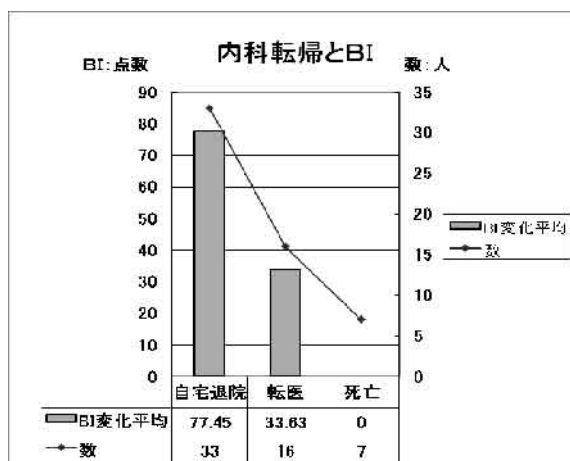


表 4

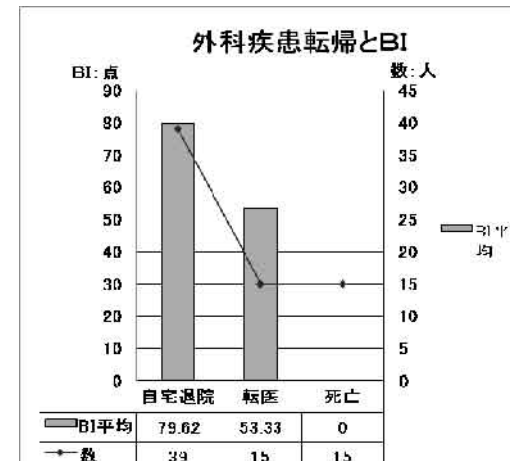


表 5

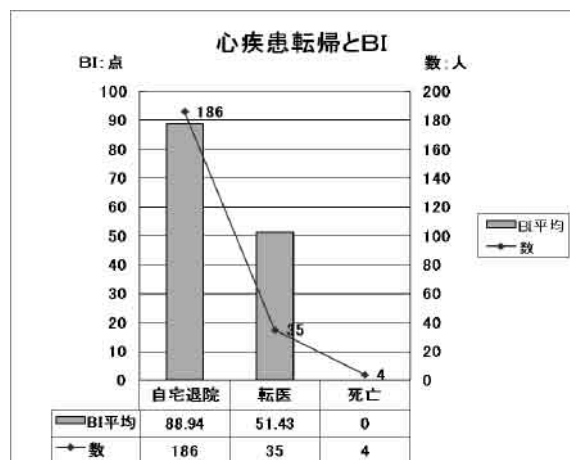


表 6

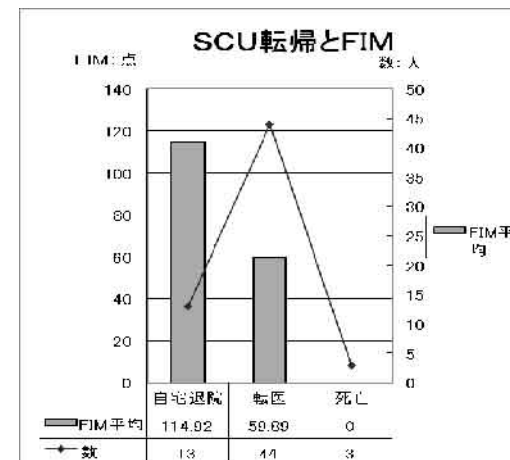


表 7

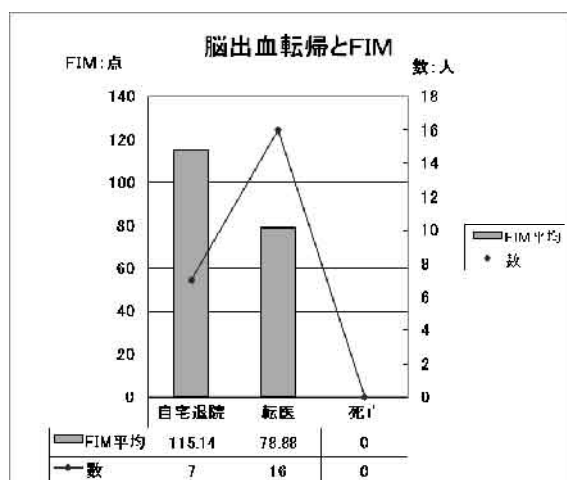


表 8

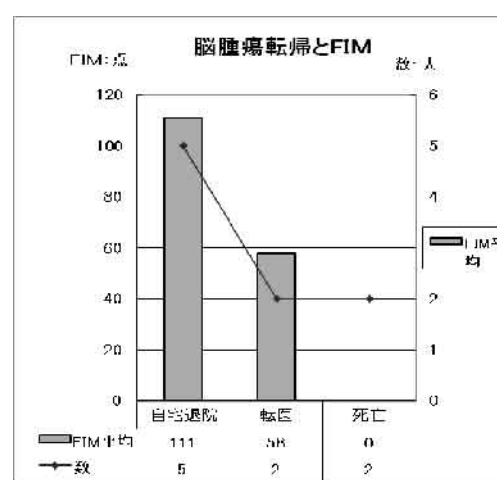


表 9

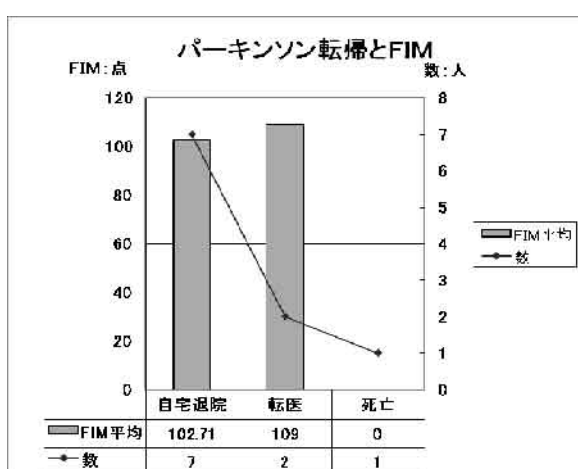


表 10

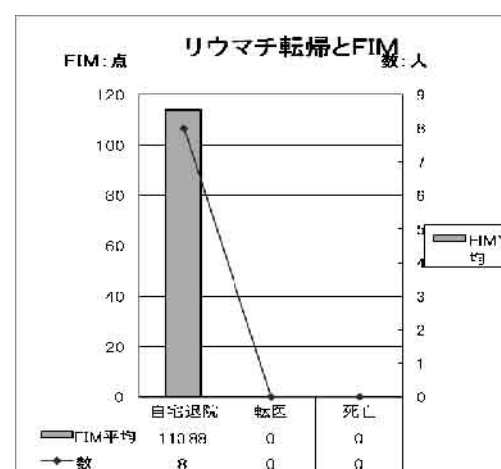


表 11

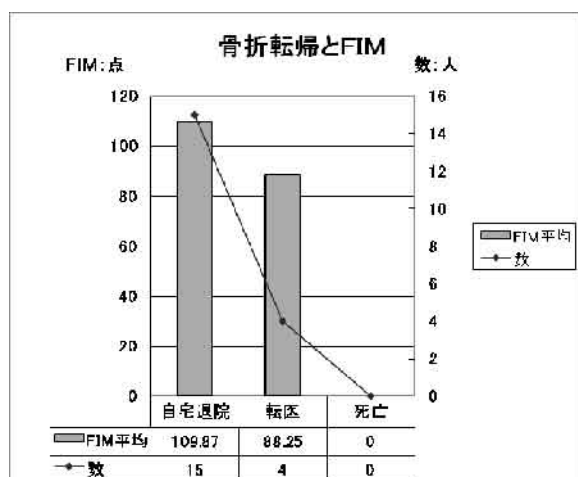
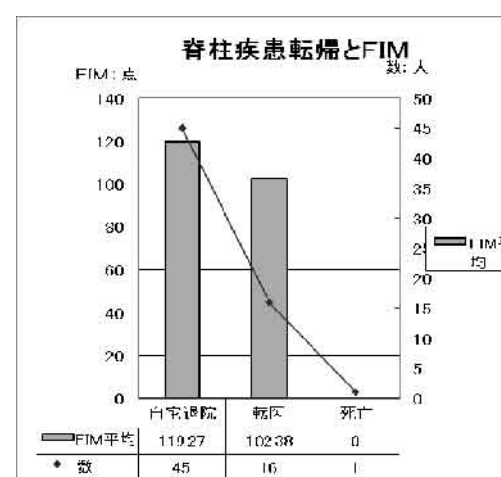
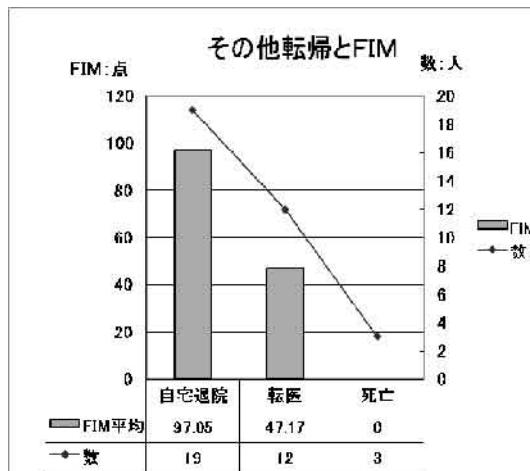


表 12



(図 3)

表 13

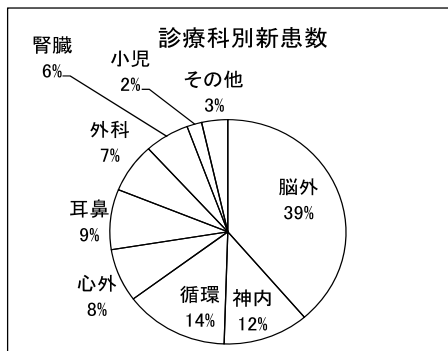
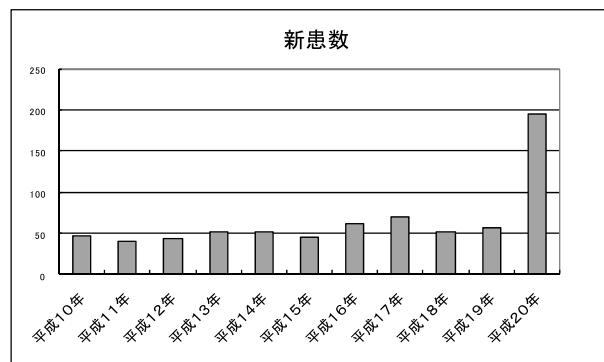


〔言語聴覚療法〕

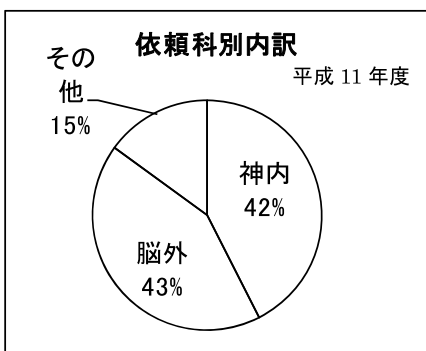
【患者動向】

2008年5月1日より言語聴覚士が耳鼻科・リハビリテーション科兼務という形で常勤となった。常勤となって1年だが、ニーズは高く前年に比べて飛躍的に新患数も増加している。(図1) 新患数は196名(男114名・女82名)平均年齢68.4才(0才~95才)。依頼科は脳外科と神経内科で50%を占める。(図2-1) これは脳血管疾患後のさまざま

(図1)



(図 2-1)

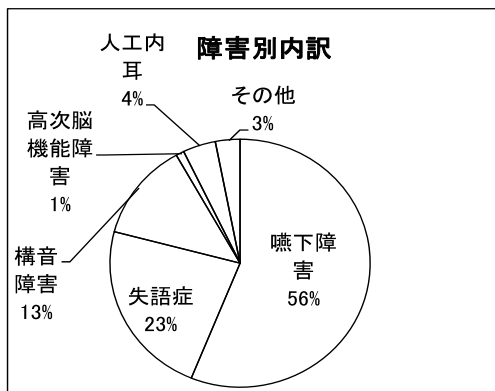


(図 2-2)

まな障害を対象とする言語聴覚療法としては当然のことである。しかし他科からの依頼が半数を占めているのは、開設当初の平成11年の内訳と比較すると大きな変化である。

(図 2-2)

近年急性期病院では脳血管疾患による失語症や構音障害



(図 3)

よりも嚥下障害の患者様が増加し、近隣の病院でも同様の傾向であると思われる。当院でも全依頼数の56%を占めている。(図3) この割合は年々増えており、NSTチームの活動などもあり栄養摂取に対しての意識の高まりと考えられる。そのために脳血管疾患を担当する脳外科や脳神経内科以外の依頼が増え、耳鼻科を除き、その内容はほとんどが嚥下障害に対するアプローチとなっている。

嚥下障害についてはほぼ全科から依頼がありこれからもニーズは高まる一方と考えられ、潜在的な患者様はまだ

まだ多く存在すると思われる。

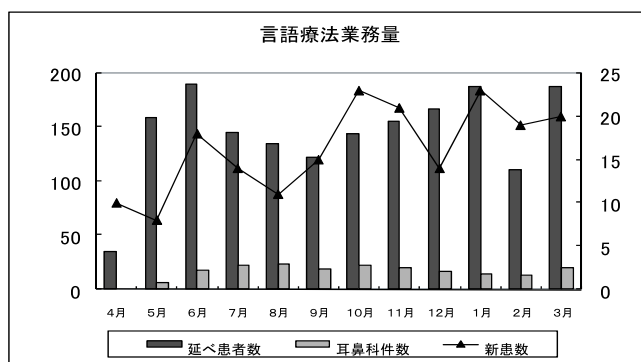
嚥下訓練については摂食機能療法という独立した保険点数も認められており、点数改正による減収の厳しい状況にあっても増収の見込まれる分野と考える。今後看護部と話し合い協力して効率の良いシステム作りをして行きたいと思う。

【業務量】

年間の業務量については表のとおりである。今年度は人工内耳の専従という配置になったため実際のコストは人工内耳関連の訓練のみにおいて算定。人員配置については現在検討中である。

業務量

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ患者数	34	159	190	145	134	122	144	155	167	187	110	187
耳鼻科件数	0	6	17	22	23	18	22	19	16	14	13	20
新患者数	10	8	18	14	11	15	23	21	14	23	19	20



延べ患者数：1,734人

月平均：145人

1日平均：8.2人

(4月分の業務量は非常勤で実勤務は6日)

《業績》

(1) 学会研究会報告 (2008.4~2009.3)

番号	整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1		骨移植を併用したセメント人工股関節の術後成績	太田一威 榎谷昭一	第39回日本人工関節学会	2009.2.13

(2) 研修・教育

月 日	会 名 ・ 場 所	参加者
5月31日・6月1日	日本コミュニケーション障害学会	横山
6月14日	緩和ケア勉強会	横山
7月5日・6日	嚥下臨床研究会	横山
8月3日	胸部画像診断 三宮研修センター	及川 石田
11月29日・30日	心臓血管術後の理学療法 群馬県立心臓血管センター	及川 石田
12月13日・14日	心筋梗塞の理学療法 聖マリアンナ医科大学付属病院	石田
1月30日	聴覚勉強会	横山
2月2日~2月7日	聴力検査研修会	横山
3月22日	大阪府言語聴覚士会学術講演会	横山

(3) 院内研究活動 (2008.4~2009.3)

番号 整理	演 題	発 表 者	発表場所	年 月 日
1	脱臼について	石田	5階海側病棟	2008.8.13 2008.8.15
2	呼吸介助法	石田	7階山側病棟	2008.10
3	呼吸理学療法 ~リラクゼーションテ クニック	石田	ICU	2009.1